



水 2
4815
I

七丹口

昭和三十八年
六月三日
小島野寺
長男英次
氏家贈

詞玉緒乃序

開

あづもて今を春とどのある代
乃免ふふさく此言葉乃花もふ深
ひまさりていもむむとたきこるゆひ
を途ありける。あはあれども。影さくえ也
る山のわのんあさきうひすあひのなが
ら。かた くれとあじくしきとらお

詞玉緒乃序

かゝる中こそよきはのよしのくちもむくら
おの山後やうふこしうもやうまてまし
みふ人の思ひなむむさるるまこと
とふ此いさゝかもあぐらふあるら
なく思ひえうも。およまぬのまぶあ
しるあちし。しもあちなくんあ
るを。又うもあまのまぶあぐらひよ。

難波堀江のみをほく。深きうら
えあれてあまれさもお。あまの
まらうとさあ。あまの。あまの
くふうま。あまのあまの。あまの
けいりて。あまのあまの。あまの
あまのあまの。あまのあまの。あまの
あまのあまの。あまのあまの。あまの

○二のまじり

とまじりよき上へうらまふまじり

まじりよきまじり

變格 ハレゆきまじり

本音ふゆつろ格 ナホナりまじり

てふまじり不調音 十三のゆきまじり

一本にてふまじりを字一保まじりまじり

○三のまじり

を 六ヶ條 一のゆきまじり

を 四のゆきまじり

を 五のゆきまじり

を 六のゆきまじり

を 七のゆきまじり

を 八のゆきまじり

を 九のゆきまじり

を 十のゆきまじり

を 十一のゆきまじり

を 十二のゆきまじり

を 十三のゆきまじり

を 十四のゆきまじり

を 十五のゆきまじり

を 十六のゆきまじり

を 十七のゆきまじり

を 十八のゆきまじり

を 十九のゆきまじり

を 二十のゆきまじり

○四のまじり

や 八ヶ條 一のゆきまじり

や 九ヶ條 二のゆきまじり

や 十ヶ條 三のゆきまじり

や 十一ヶ條 四のゆきまじり

や 十二ヶ條 五のゆきまじり

や 十三ヶ條 六のゆきまじり

や 十四ヶ條 七のゆきまじり

や 十五ヶ條 八のゆきまじり

○五のまじり

○五乃五

や 歎息 十八のひくよき [や] 十九のひく [まや] 二十のひく

や 雑 二十條 二十のひくより [や] 二十一のひく

加 五ヶ條 二十のひくよき [うん] 二ヶ條 二十一のひく [うと] 二ヶ條 二十二のひく

めうも 二十のひく [うふ] 二十のひく [りや] 二十のひく

何の敷 八ヶ條 二十のひく [あふ] 二十一のひく [あど] 二十二のひく [あそ] 二十三のひく

たき 九ヶ條 二十二のひく [いふ] 二十三のひく [いく] 二十四のひく [いうで] 二十五のひく

いづと 二十のひく [いつ] 二十一のひく [いつ] 二十二のひく [いく] 二十三のひく

いそ 十二ヶ條 二十のひくよき [いそ] 二十一のひく [りそ] 二十二のひく

あどとそ 二十のひく [さそ] 二十一のひく [さあそ] 二十二のひく

こ 十ヶ條 二十のひくよき [こ] 三ヶ條 二十一のひく [こ] 十六のひく

ご 十七のひく

を 四ヶ條 十八のひく

ふ 七ヶ條 十九のひくより

て 二十のひく [て] 二十一のひく [て] 二十二のひく [て] 二十三のひく

で 二十のひく [て] 二十一のひく

み 四ヶ條 二十のひくよき

み 三ヶ條 二十のひく

よ 二ヶ條 二十のひく [てよ] 二十一のひく [こよ] 二十二のひく [よ] 二十三のひく

祢 二十のひく

あ 助辞 五のひくより

あ 三ヶ條 五のひくより

らく 五七のひく

まく 附ま 五七のひく

きく 附き 五八のひく

か 五九のひく

○六の毫

むきびあを

あ 一のひく

あ 一のひく

あ 二のひく

あ 二のひく

あ 三のひく

あ 三のひく

組鏡亦十九段より中亦二段までの事 五のひくより

ん め 八のひく らん らめ 八のひくより

きん きめ 十二のひく ゐん ゐめ 十三のひくより

ま 十六のひくより ら 附 十九のひく

は 五のひくより か 五のひく

が 附 五のひく

七法連を

右風効

義系系中ておをばしおつてう 三のひくより

同系中てふをばしおつてう 五のひく

同来者言は一つの格 八の抄

同来者ておをはの訓を誤りたる 九の抄

古風の辞づひ 十の抄

を くも いも とよ 十の抄

ぞ そぞ りぞ ども 十の抄

の 十六の抄

や いや りや やも きんや 十七の抄

加 くも ろうも 十八の抄

志 よ や まも 志ぞ 志アそ 十八の抄

あ あ あ あ あ あ 十八の抄

志 あ あ あ あ あ 十八の抄

い 十八の抄

をを器く格 十八の抄

くまぐのやまめ辞 十八の抄

らまを器く格 十八の抄

あまあふゆ 十九の抄

よふ何なるを 十九の抄

あまあふよ 十九の抄

あま 十九の抄

あまのこのあま 十九の抄

あま 十九の抄

あま 十九の抄

あま 十九の抄

みまあふら 十九の抄

あま 十九の抄

あま 十九の抄

あま 十九の抄

あま 十九の抄

あま 十九の抄

とよく思へばあはれども。ちやあやを控ておそはをよくあはぬりのふらん
有ら。おのゆゑも。うねかゝぬの物字といふあはれ。そのふと未
そをけひて。かきへあをす。さうまひんはれりのあはれ。そ
おをそ。たぐふけは。まはあし。まて。いさうと。よがひ。お
むまの茶。そのも。あも何も。まて。いさうと。よがひ。お
あはれ。いま。いさうと。よがひ。お
と思ひて。いさうと。よがひ。お
りて。そを。あはれ。まて。いさうと。よがひ。お
おと。おの。あはれ。まて。いさうと。よがひ。お
へん。の。あはれ。まて。いさうと。よがひ。お

まて。いさうと。よがひ。お
○又あはれ。おの。あはれ。まて。いさうと。よがひ。お
ら。あはれ。おの。あはれ。まて。いさうと。よがひ。お
ら。あはれ。おの。あはれ。まて。いさうと。よがひ。お
へ。あはれ。おの。あはれ。まて。いさうと。よがひ。お
て。あはれ。おの。あはれ。まて。いさうと。よがひ。お
て。あはれ。おの。あはれ。まて。いさうと。よがひ。お
ら。あはれ。おの。あはれ。まて。いさうと。よがひ。お
ら。あはれ。おの。あはれ。まて。いさうと。よがひ。お

右 中 左 廿七位

右

を 徒

右十九
人尔りりむつきはるきふと 右ひかまてむひちりて大ふんやきとて
後十六
むとつふ恨るるをそそ 笛外の勢のちふと 右ふらうめと
凡雅十巻ある
右にのまきけバウひき一時きふとやうんともふふこふ何と
右十九
松よりらとよまゑのせ先らとむせんうあま 右
右

申

そ の や 何

右十九
松よりらとよまゑのせ先らとむせんうあま 右
右
うりねふんふんまきつと 右ひきの 右とくくひひもさる
松ふし
元彌ガのちといもく 右と 右やこふひのちになつてはさる
右十八
右をのそひふしぢはあうふま 右つ 右八右乃まゆら時あふ
右十七
あど、あやあうハお祭とぬよりむ 右トなまきの枝ふとあま

九

あま

右十七
あど、あやあうハお祭とぬよりむ 右トなまきの枝ふとあま
○此位をみるをて結ぶる方ハ例をみるれを畧する

右

を 徒

右
右川右のあまは神杖づりりてあゆふたべと 右をこりり 右と
右本
むりちぎハ神のふと 右と 右と 右と 右と 右と 右と
注二心はあまを後
秋ゆりてまき集は山と 右お祭 右と 右をハ時あもそのととあふ
右と序
けあまふととまみり 右とまき 右川をよりなふ敏づりり 右と
右と

中

や

右
いさうのみまきやくはるもまきつとをな乃わと 右や面かりり 右と
○けはどの何とそは徒あふりては。いかなるをて
むらづまきとていさうあ。

右 中 左 廿七位

右

も

も

徒

ぞ

の

や

五十八 正がつ初もみやこはしつとふぞとむ一 十候うらふと人二 も三 ぞ四
同十六 みる人一 も二 花の衣三 一四 ありぬ五 あり六 言はきり七 一八 ありぬ九 ぶせよ十
同四 神無月一 ぶせよ二 ありぬ三 一四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
同十九 難波一 ありぬ二 ぶせよ三 ありぬ四 ぶせよ五 ありぬ六 ぶせよ七 ありぬ八 ぶせよ九 ありぬ十
同六 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
同四 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
同三 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
同四 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
千四 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
保氏抄 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
同四 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十

中

た

や

同十九 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
同十八 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
同十八 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
同十八 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十

た右 た中 た左 才十候

右

も

同十六 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
同十八 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
同十八 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十
同十八 ありぬ一 ぶせよ二 ありぬ三 ぶせよ四 ありぬ五 ぶせよ六 ありぬ七 ぶせよ八 ありぬ九 ぶせよ十

〇五〇九
 〇九二

申

ぞ の や 何

はなはたけみふぞとぞと 山崎の花乃下ゆく井もけ何あり
法一
何ふた乃里まや春とあつらん 喜梅の山の 春はよき
法一
春夜まの川をえさてけ石を花をき里にのみやあつ 居る
四三
兼やんまき乃やまや 何の 郭ふ日たをうもるむそふたつ
法一七
たるぞこの何ふふともや一はさしやも ちどろんちどろまきま
せり

た

空

わびさりとあふ 一と一と 櫻もふまぬあふ人もまらり
法一
まろと 右
まろと 中
まろと 左
赤十八段

た

を 色 境

みさびらひけうさとやせふ 春のたのしみ ぬふまきま
凡八徳念ふたは
みやまふを かねやまろと 一と一と 池のまきま 仙人さくろん
法一
春日中をうやちあやまを 志あけまもこりけり 水と ちと
正法るそ小竹後
なつ川にまきま 一と一と 一と一と 何れかあつてやまきま 一と一と
法一
いさりらるうさおあぬ人 出あらし 浦のゆりく ますこもこ
法一
秋を居て月をながむ 一と一と 一と一と 一と一と 一と一と
法一
まきりくもいさくあきま 秋の東のまきま 一と一と 一と一と
法一
ちかくて ぞ 一と一と 一と一と 一と一と 一と一と
法一
あくとてあべきおと梅花うまをあひの 健ふまきま
法一
うちうへへえまきぞあきま 八マキまきま 一と一と 一と一と
法一

中

ぞ の や

あくとてあべきおと梅花うまをあひの 健ふまきま
法一
うちうへへえまきぞあきま 八マキまきま 一と一と 一と一と
法一

○おのを一 ○ち云

丸

おそ

大り五二と秋く後三のりににさ身てくしき地くはひをぬき
ぬよくき救つりぬき部くまくほもまき一くふよらくと

つ右

つ中

つ左

才二十段

後六花をよと出りのを秋の野花音にまよひてゆふくらじつ

右九花をよと出りのを秋の野花音にまよひてゆふくらじつ

右三花をよと出りのを秋の野花音にまよひてゆふくらじつ

後七花をよと出りのを秋の野花音にまよひてゆふくらじつ

今よりハあらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

日がころちちあらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

右七花をよと出りのを秋の野花音にまよひてゆふくらじつ

日がころちちあらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

右

後 右

中

何 の ゴ

何の心下あらはこごさて勝つららをせきぞく縁つくふ

ゆきつぞあひてをりつ身の内をいくくと何じと思へん

後七花をよと出りのを秋の野花音にまよひてゆふくらじつ

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

丸

おそ

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

あらわくらまくまする花のみやふやらく定めつく

ヤ

後ち 秋のゆらけ ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

たぐ 暈によかさをしそり海をまじたまふおしと福るゝ志

秋のびく ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

秋のびく ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

秋のびく ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

秋のびく ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

秋のびく ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

秋のびく ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

秋のびく ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

秋のびく ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

秋のびく ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

秋のびく ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

秋のびく ぬふりくくまをべし ちちふ人あまゆきつや

左

おそ

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

あぶきとまきき時をけり川の心より月けかく

右

徒

みじろ山お紫らうし 旅人の菱れをうさうし 縁たをかく

みじろ山お紫らうし 旅人の菱れをうさうし 縁たをかく

みじろ山お紫らうし 旅人の菱れをうさうし 縁たをかく

みじろ山お紫らうし 旅人の菱れをうさうし 縁たをかく

みじろ山お紫らうし 旅人の菱れをうさうし 縁たをかく

みじろ山お紫らうし 旅人の菱れをうさうし 縁たをかく

みじろ山お紫らうし 旅人の菱れをうさうし 縁たをかく

○五の五

○三十

右

中

そ の や 何 毫

神をさしよまききゆく秋をぬを立田川よぞぬさしたむく
をみまべーじしとえつぞゆきとぐろ男山ありたるをと思へを
好たま
玉垣のみ川の傍に暮るまはれり人の花散るむく
路をさる者
みてぐろのきつやいそは川流ふふのおまともさやたむく
ふかろふぬ
心をぐりぬるやとぐろねほの多くとまげバ秋のまら

く
く

右

中

左

境 ぞ の や 何 毫

秋思りよをばらうしほひよはを成るへといや瘦りやを
心ぶらうかきとあをるうりうきつうき物ういほぞあう
秋物土を義
はあわて今ぞあうとろ人あをぬひむむつるぬりたあうを

月長ま
よくいふやそふあうまうようの心をふらまき花乃あう若
後十六
とがあういっなりしてあうはをあしけふあおあこ

六るま
秋といへをうづら唱りり小秋来床は身をアそ花りまう

○あの一

○五

ナトホ
せうか
ナトホ
ナ
オホ五段

たきカキぞのみまはむづもあきくふむらむだのカキあづカキ

ゆき

丸

あそ

ふ右

あそ中

あそ左

オホハ

中

や の ぞ

ふ右 あそ中 あそ左 オホハ
ふ右 あそ中 あそ左 オホハ
ふ右 あそ中 あそ左 オホハ

はみのえはあゆむ松のよりひをばうくもあややうぞう

や 何

千日 云 ちみあべーはりあやあきそあ たまればいそ神のあきそ
六日 云 ちみあべーはりあやあきそあ たまればいそ神のあきそ
八日 云 ちみあべーはりあやあきそあ たまればいそ神のあきそ

丸

あそ

あそ ちみあべーはりあやあきそあ たまればいそ神のあきそ

右

後

ぞ

万九 云 ちみあべーはりあやあきそあ たまればいそ神のあきそ
十八 云 ちみあべーはりあやあきそあ たまればいそ神のあきそ
十九 云 ちみあべーはりあやあきそあ たまればいそ神のあきそ

○あのみ

○ホ三

右

の そ 徒 毛 毛

才廿五版

才廿五版

才廿五版

協川

山の麓にありて水は清く流るるなり

才十二

まの麓にありて水は清く流るるなり

才十二

あつちありて水は清く流るるなり

才

才

才

左

い 零 何 や

才廿五版

才廿五版

才廿五版

才

協川

まの麓にありて水は清く流るるなり

才十二

あつちありて水は清く流るるなり

才十二

まの麓にありて水は清く流るるなり

才十二

あつちありて水は清く流るるなり

才十二

まの麓にありて水は清く流るるなり

才十二

あつちありて水は清く流るるなり

才十二

(石)

色 境 そ の や 何

色依依藤
空の秋は月と香とをそとる秋の月花の明る面秋のつ

後云
大川一つを流るる秋の七日此をそとる

大川一つを流るる秋の七日此をそとる

大川一つを流るる秋の七日此をそとる

大川一つを流るる秋の七日此をそとる

(反)

何 色 徒

何
色
徒
人志まどまて
了そ
まて
うそ
まて
うそ
まて
うそ
まて

ふ 右 へ 左 身成る候

全云
ふ
りりるれを秋の月と香とをそとる秋の月花の明る面秋のつ

こよりのちやあは月と香とをそとる秋の月花の明る面秋のつ

あきしをれに代の娘乃あきし山天てる神のむらうそ

○あきの

CH

右

左

徒 ぞ の や 何 おそ

わがびとていこうと海嶽こそふた八 ちきまらるや下はるゆらん

春事ぬと人きくともうらひまゐるぬきりはあはじと四 ぞ思ふ

つらむこのまづきとぞ日六 かくらふふ ちかう人うと身をまきとらうふ

夕暮や秋のつらむこころん千五 かつく神水まののたまふふ

ふゆのひるに余秋のぞあはるはち年色かくる有んと徒五十二 や思ふ

秋を月うらむと後八 やありふりみらむのやむ時もくよるまあや

先が秋よりうぬあゆむ女神花ち らむりしきくまらうらふ

まじりまをむあしとはたきいふ千六 妙ぞをたむと先きもあ

秋秋乃あをををぬりぬくせぞとままばすしとまうりた八 了そ思へ

まうりまはむれ了そあへへ日一 梅花ありとやうにそはれぬく

む 右

先 左

才七反

む

いかりおちき志での回を星加所 ぞむあむ 秋位里に丁あしねと

む

ちかむやあつと秋のうらむびてあはれみやこふ月千十六 せうりむ

む

いさへへの世中け居ぬあまけれど本の心をあつむた十七 ぞくむ

又がわハみやこのうらむと日十八 ぞむむ 小休うらむと人きりあるむ

○あのみ

○才九

元

の

や

何

空

ん

後十七世末ア
よも色は海よりわらむにけむくやくとしかくもなきを **や** **は** **む**

後古ふ
はきもなきつゆを **や** **の** **む** 色はけふなきは夜ハ赤もむく

万十九
まきけてりのがねしきふささくもがうあく **た** **う** **回** **ふ** **む**

後古右
くもなきは **な** **ふ** **う** **や** **む** まきのまねるはむしとせど

後一
まねるふむきふと **や** **ら** **ぬ** **が** **を** **ま** **葉** **つ** **ま** **て** **身** **ま** **て** **は** **め**

若も論衡系
乃よりりの枝 **て** **そ** **た** **め** 葉は葉ふ夕あふぎくむくやむん

か **右** **き** **右** 廿八段

後一
いづこはまねるけうりへさうまくふまごみうの **心** **を** **書** **ふ** **る**

右

も

色

徒

ぞ

の

や

後十ふ
此よりけふはの痛え **を** **思** **ひ** **や** **る** いろもむらうむらう

後九
夕ぐしん **中** **川** **水** **と** **か** **る** 色はぬのふらう鈴やきまへを川らん

古七
なを **な** **が** **を** **み** **ら** **ら** **し** **は** **る** **衣** **し** **の** **つ** **流** **り** **た** **が** **さ** **き** **は** **る**

万十二
あきべよ **を** **あ** **る** **人** **の** **が** **る** よびよきていさ昔やらん 徒のつりり成

古十七
あきら **ら** **れ** **徒** **の** **さ** **か** **ら** **ひ** **か** **ま** **て** **よ** **う** **れ** **時** **の** **後** **よ** **ぞ** **う** **る**

古十八
はら **も** **の** **は** **この** **本** **て** **ふ** **た** **ち** **そ** **よ** **う** まねるやまの徒とあつ

古六
ま **乃** **き** **て** **ま** **ね** **る** **ぬ** **き** **て** **ま** **ね** **り** **心** **の** **あ** **き** **の** **む** **じ** **う** **ち** **る**

古三
あ **ら** **う** **そ** **う** **そ** **う** **つ** **あ** **は** **ら** **う** **む** **ら** **あ** **ら** **う** **や** **あ** **ら** **う** **あ** **ら** **う**

古四
は **ら** **う** **き** **て** **ま** **ね** **る** **は** **と** **や** **あ** **ら** **う** **る** 色はけふはけふ

○あのみ
○あ十一

九

空

夕月乗あつらまきをむらう一夢二んれ浦をりきし
むら川よりや人しもつらめ
夕月乗あつらまきをむらう一夢二んれ浦をりきし
むら川よりや人しもつらめ

らん 右

らめ 左

才四十段

七

七

徒

夕月乗あつらまきをむらう一夢二んれ浦をりきし
むら川よりや人しもつらめ
夕月乗あつらまきをむらう一夢二んれ浦をりきし
むら川よりや人しもつらめ

右

ぞ

の

や

何

左

空

夕月乗あつらまきをむらう一夢二んれ浦をりきし
むら川よりや人しもつらめ
夕月乗あつらまきをむらう一夢二んれ浦をりきし
むら川よりや人しもつらめ

○あのみ

○あのみ

右

色 後 ぞ の や 何

同六 美波おきまていづらんをとりて、未のねの波色うんかん
同六 いさ様もいづらんかん ひとさうりうりさ人よりにのりかん
同十一 人ーまの思へをうりーささめおまつひまのうらゆいでかん
同十八 何ー引の心のまかくかん くらよの中へわうひもほしかん
お千右少将御 ちくくバ部のま川あうらひまのつてぞきかん 花をちうは
同十八 何をさありーくねの思見まの かに思ひおぼしめられかん
同六 三田川 ね茶みさしてさうりうり海へは縁中 やかん かん
同六 秋のちふよとやかん 女にむをさけふまの思ひうけつ
同十三 かなとくくも若くはまつら いちあう方に思ひたえかん

左

何 毫 色 徒

同十八 いづくふゆきうらまかん 昔に身付あては了そ人もはくくさ
同十九 一のちうけくねいびとふおをさきハ保きさかん へかん へかん
同十九 何ぞーいそかん 中はさあさかん へかん へかん へかん へかん
同十三 てんかん 右 才四十三後
同十四 てめかん 左
同十三 深みどり藤さんね乃えふー何くはうとに種おもはかん へかん てん
同十四 ねをーくの紫今かん へかん てんかん へかん へかん へかん
同十九 何りささといくよさあかん へかん へかん へかん へかん へかん
同六 何ささささかん へかん へかん へかん へかん へかん
同十八 何さささかん へかん へかん へかん へかん へかん

○あのを一

○四十四

右

左

候

ぞ

の

や

何

毫

はらうまうまうえん **てん** ちき竹のよはねけりしちきとてこれ

てん

てん

てん

たす たす 何とておむぞうとたつせいのよきばきとや **や** ちひさ **てん**

たす たす えてのこ **や** ちらじ **てん** ちらむら **てん** ちらふく **てん**

たす たす 吾日世のちきむの世も出てえよ **い** まい **てん** ちらむら **てん**

たす たす ちらぬま **てん** ちらむら **てん** ちらむら **てん** ちらむら **てん**

は 色 徒 ぞ の や

は は 田川 **ら** ちき **ら** ちき **ら** ちき **ら**

色 色 ちき **ら** ちき **ら** ちき **ら** ちき **ら**

徒 徒 ちき **ら** ちき **ら** ちき **ら** ちき **ら**

ぞ ぞ ちき **ら** ちき **ら** ちき **ら** ちき **ら**

の の ちき **ら** ちき **ら** ちき **ら** ちき **ら**

や や ちき **ら** ちき **ら** ちき **ら** ちき **ら**

○まの

○心

ヤ

法三
きつつ^三ヤ^三川^三祢^三あ^三ら^三ー^三あ^三い^三る^三祢^三が^三せ^三う^三け^三ー^三う^三り^三ら^三

何

東^三海^三や^三ら^三づ^三る^三祢^三色^三う^三ち^三ま^三へ^三ー^三い^三く^三へ^三う^三音^三結^三下^三お^三ら^三ー^三

亮

松^三の^三祢^三う^三風^三の^三ま^三く^三を^三ま^三を^三て^三ハ^三三^三回^三祢^三あ^三そ^三秋^三を^三か^三く^三ら^三ー^三

を

ぬ^三ま^三み^三づ^三る^三人^三一^三き^三ら^三ー^三ら^三ー^三あ^三く^三ま^三れ^三ま^三あ^三く^三も^三ち^三う^三う^三祢^三の^三せ^三う^三は^三あ

を

ま^三と^三後^三ぞ^三の^三や^三何^三そ^三を^三い^三づ^三の^三結^三び^三も^三と^三あ^三く^三ハ^三ら^三ー^三の^三と

を

よ^三し^三て^三他^三の^三辞^三ら^三ー^三ハ^三後^三を^三ま^三き^三こ^三と^三な^三る^三也^三

を

梅^三が^三ら^三ふ^三来^三わ^三る^三ま^三き^三ま^三く^三け^三て^三ひ^三を^三な^三い^三ま^三が^三音^三ま^三あ^三り^三づ^三



と 徒 の

ゆ^三ら^三ゆ^三ら^三の^三音^三ま^三花^三を^三後^三づ^三り^三あ^三う^三け^三る^三祢^三色^三か^三ひ^三ま^三え^三つ^三ー^三
や^三ど^三り^三せ^三ー^三人^三の^三か^三こ^三う^三あ^三ぢ^三を^三あ^三ま^三す^三う^三れ^三が^三れ^三う^三あ^三を^三ひ^三づ^三
花^三び^三に^三あ^三ふ^三せ^三く^三こ^三ひ^三な^三を^三く^三み^三下^三ゆ^三あ^三の^三む^三ま^三あ^三づ^三つ^三
免^三の^三ま^三ま^三う^三う^三は^三ふ^三け^三き^三う^三ど^三る^三人^三ま^三ね^三お^三音^三の^三後^三づ^三

を

は^三の^三上^三を^三た^三の^三ぬ^三く^三を^三と^三後^三の^三あ^三り^三ぞ^三や^三何^三そ^三と^三あ^三う^三て

を

て^三ハ^三後^三と^三後^三が^三後^三を^三ー^三又^三後^三ハ^三あ^三う^三は^三ま^三う^三て^三ハ^三切^三と^三ぞ^三う^三あ^三

を

あ^三あ^三う^三を^三ま^三う^三後^三づ^三う^三あ^三う^三ー^三

を

あ^三ま^三い^三づ^三と^三も^三下^三に^三ま^三ま^三を^三あ^三く^三ま^三て^三後^三が^三後^三い^三け^三か^三に^三て^三あ^三れ^三う^三

を

後^三ハ^三切^三と^三ぞ^三う^三後^三を^三ま^三う^三後^三づ^三う^三あ^三う^三ー^三

かみ

ふるあきとてハ。申にてふきまのそのへをらやまり。つらハ訓の温とて
を。そのまゝにそりまどせしむては。は。むがて。のこあわれれど。まをう
ろくは。

○上の件。能くは。うらふ。而くは。能くは。関し。が。おそき。ま。おのづから。語ら
より。こぬ。あふ。ま。こ。ふ。た。き。と。う。く。又。おの。が。考。へ。り。う。せ。と。お。ふ。く。べ
り。と。は。後。家。に。は。ま。う。の。あ。合。る。首。か。ど。お。ろ。く。あ。ま。う。り。く。先。か。あ。か
こ。と。う。れ。ひ。の。う。と。と。う。を。ぬ。ぞ。く。後。の。人。考。へ。お。く。く。ん。を。た。り。
か。き。く。も。へ。て。よ。

○古きを引知さる。か。く。ら。ふ。右。今。来。あ。う。た。後。既。と。後。後。き。ハ。括。後。括。き。ハ。括。括。
合。集。も。合。河。の。河。千。載。と。千。新。在。の。ハ。新。新。新。後。も。新。新。と。と。せ。り。か。
と。こ。と。う。く。あ。ま。う。り。く。先。か。あ。か。又。その。下。に。教。の。ゆ。え。を。あ。せ。ら。ハ。その。ま。の。つ。つ。で。し。



跡見

